

安全で質の高い医療を目指して！ —ヒヤリハットの分析と対策—

○原 滋秀¹⁾、山田 周平²⁾、山田 知子²⁾、
嘉村 律子²⁾

¹⁾ タイヘイ薬局 白石店、²⁾ かみみね薬局

【目的】平成19年4月より『医療安全管理体制』が義務付けられ、安全性の高い医療が求められています。薬局の日常業務において、一つの重大事故等で、医療機関、処方医、患者様との信頼関係は崩壊しかねません。一つの重大事故の影に29個の軽症事例、300個のインシデント事例が存在するとハインリッヒの法則は示しています。安全で質の高い医療の追求とレベルアップを図る一助として、タイヘイ薬局グループは、些細なミス（ヒヤリハット）に着目しました。これは、些細なミスの積み重ねが重大なミスにつながる可能性がある為です。些細なミスを減らす事で重大ミスや調剤過誤を減らす事、未然に防ぐ事につながると考え、ヒヤリハットの分析と改善に取り組みました。

【方法】タイヘイ薬局でヒヤリハットを記入し、一月毎に収集、分析、検討、評価し、原因の追求、問題点と注意点、改善点を考え翌月の目標を定め、職員の周知、徹底を行いました。

【結果】ヒヤリハットの収集、分析、検討、評価を月毎に繰り返し行った事でヒヤリハットは減少し調剤事故、調剤過誤の減少につながったと考えられます。

【考察】処方箋の表に投薬者、裏打ちに監査者が、○印等の鉛筆チェックの実施。規格違いのある薬の配置転換、処方箋の斜め読みの改善、原因の追求と改善策を行った事でヒヤリハットは減少し、調剤事故、調剤過誤の減少につながったと考えられます。我々の些細なミスを減らすこと、注意する事が大切であり、重大事故等の撲滅の為に必要であると認識しました。今回のヒヤリハットで個人の問題意識の向上と強化、弱点の自覚を改善できた事は大変有意義でした。また監査者の十分な監査は必要ですが最初の調剤者が、十分に注意し調剤を行う事で、調剤ミスの減少につながったと思われます。今後も、医療安全性の維持とレベルアップの為、ヒヤリハットの減少と調剤事故、調剤過誤の撲滅に全力を尽くしていきたいと考えています。また患者様満足度の向上の為に何が出来るかを追求していきたいと思えます。

薬歴管理について

○北島 孝臣¹⁾、辻 真利¹⁾、吉田 貴大¹⁾、
佐藤 仁美¹⁾、秀島 好美²⁾、豊田有多子²⁾、
酒井 淳子³⁾

¹⁾ タイヘイ薬局メディカルモールおぎ店、

²⁾ タイヘイ薬局小城店、³⁾ タイヘイ薬局医大前店

【はじめに】保険調剤薬局において薬剤師は薬歴をもとに患者様に服薬指導を行う。患者様と薬剤師をつなげている薬歴は複数の薬剤師が所属する調剤薬局では服薬指導を行う際に情報の共有化をできていないとそれが原因でトラブルを起こしかねない。これまで弊社では個人の判断で薬歴を作成していた。これをある一定のルールを設けることで薬歴を通して個々の患者様の状態を把握することができ、より良い患者サービスを行うことが可能になると思う。かかりつけ薬局が世間に浸透していくなか、薬歴は今後さらに重要度が増すことが考えられる。

【目的】弊社では、H19年よりSOAPで薬歴の記録をしているが、患者様によりよいサービスを提供するため、より効率的に業務を行っていく上で、これまでよりもさらなる改善が必要と考えた。

【方法】(1) 初回（新患）アンケートの見直し (2) 歴の標準化 (3) POS研修会の参加 (4) 薬歴作成の際の優先順位の明確化

【結果】初回（新患）アンケートの見直しを行ったが、小児の患者様の体重、女性の患者様で妊婦・授乳婦の確認などは今までは投薬時に口頭で確認していた。アンケートの項目に入れることで確実に確認でき、薬歴にも反映できるようになった。薬歴を全て個人の判断に任せて記録するのではなく、どこにどのような内容を記録するかルールを決めたことで、よりスピーディーに投薬までの流れをつくることができた。POS研修会では、薬歴の考え方を一から教えていただいた。薬の知識だけでなくとどまらず疾患の知識・ガイドラインにいたる知識が必要だということを教わった。

【考察】薬歴には、POS研修会で得られた知識や考え方を社内でも共有化するためにタイヘイグループ定例勉強会において発表を行った。スタッフの薬歴に対する意識の向上やグループ内の薬歴の標準化を目指すため今後は症例検討会を行っていく必要があると考えている。

【キーワード】かかりつけ薬局、標準化、薬歴、症例検討会